

## 19章 総合問題19

### 問題

#### 【1】

A.

#### 全訳

我々が習慣を身につける必要性は、下等動物とは違って、我々が生活を営むのに十分な本能的行動様式を備えて生まれてきていないという事実由来する。ある動物たちが本能的になしえることも、我々は学びとらねばならないのである。

B.

#### 全訳

①我々が自分の空間領域を守るのに用いる手段はたくさんあるが、その1つが仮面をかぶることである。我々が外界に見せる顔は我々本来の顔であることはめったにない。我々が本当に心で感じることを、表情や動作に表すことは、例外的な、ほとんど奇異と言っていい行為と考えられる。それどころか、我々は、顔や体による表現という段になると、注意深い訓練を実施するのである。この訓練の最も明白に表れることの1つには、我々の自分の容姿の整え方、つまり自分の選ぶ衣服や好みの髪型がある。②これらは友人や仲間に向かって、身体言語によるメッセージを送っているのである。公共の場所においては、我々の社会の標準的な人間は、きちんとした服装をし、ひげをきれいにそり、髪に櫛を入れ、手や顔を清潔にしておくのが当然のこととされている。しかしながら、たとえば地下鉄のラッシュアワー時のように、我々が注意深く身につけている仮面がちょっとずり落ちて、一時的にも、うっかりと、それももっともな理由で疲労らしきものを感じて、ありのままの自分を露呈してしまう時がある。③我々は防御の姿勢をゆるめ、疲労または苛立ちから、いつもの仮面をつけることを忘れてしまうのである。1日の仕事が終わったラッシュアワー時に、満員のバスや地下鉄や列車を見まわすというゲームをしてみるとよい。④すべての人々の顔に、どのくらいのありのままの人間が見えるままに放置されているか見るがよい。毎日毎日我々は、こうしたありのままの人間を包み隠しているのである。我々は、ついうっかりして隠し忘れている言葉を肉体が大声で叫び出さないように、慎重に自己を防御しているのである。

#### 【2】

#### ポイント

この問題文は3つの段落から成り立っている。第1段落は、第一次世界大戦後の新しい組織（すなわちファシズム）の出現についてである。第2段落は、ファシズムに対する判断の甘さについて述べている。第3段落は、ファシズムに対する判断の誤りをドイツ人の場合を例にして述べ、さらに自由と民主主義の脅威の原因をデューイの言葉でまとめている。

このような論旨の展開のプロセスを読み取っておくと解答も容易のはずである。またこの種の問題の場合は、世界史の常識も1つの決め手になる。

**解答**

- (1) its conclusion was regarded by many as the ultimate victory for freedom  
 (2) **a** submitted      **b** themselves      **c** to  
 (3) 「全訳」の下線部㊸を参照。  
 (4) **d**      (5) as      (6) for      (7) a problem  
 (8) ファシズムと反ファシズム (どちらか一方でも可)  
 (9) 我々の民主主義に対する重大な脅威は我々自身の個人的な考え方や我々自身の制度の中に、我々の外部にある権威、規律、画一性や外国の指導者への依存関係に屈服してしまっているさまざまな条件が存在するということである。  
 (10) **a, c**

**解説**

- (1) 等位接続詞 and の性質 (A and B の場合、A と B は文法的に等価値) を考える。  
 { The First World War was regarded by many as the final struggle  
   and  
   its conclusion (was regarded by many as) the ultimate victory for freedom  
 (2) 名詞を積み重ねていく、典型的な英語表現である。設問のように書き換えて和訳するところなれた日本語ができる。  
 ○ all の次の but は「～を除いて」の意味の前置詞。  
 ○ a handful of 「一握りの～」  
 ○ submit oneself to 「～に服従する」  
 (3) in the thought that … の that 節は the thought と同格の名詞節。  
 in the thought { that the victory of the authoritarian system was ~ of a few individuals  
                           and  
                           that their madness would lead to their downfall in due time  
 ○ at first 「はじめの頃は」  
 ○ find [take] comfort in 「～に慰めを見出す」  
 ○ comfort [kʌmfərt] = consolation for grief or anxiety  
 ○ authoritarian [ɔ:θɔ:rətɔ:riən] 「独裁政治の」  
 ○ be due to 「～が原因である」  
 ○ downfall = a loss of power, prosperity or status  
 ○ in due time 「時が来れば；やがて」  
 (4) the Italian people, or the Germans, were lacking in a sufficiently long period of training in democracy の部分が下敷きになっているわけである。民主主義の訓練が十分にできることが「政治的成熟 (the political maturity)」となる。  
 (5) ℓ. 17 We have been compelled to recognize that millions in Germany were (㊸) eager to surrender their freedom as their fathers were to fight for it は We have been compelled to recognize that millions in Germany were *as* eager to surrender their freedom *as* their fathers were (eager) to fight for it と考える。  
 (6) fighting and dying *for* the defense of freedom と考える。

- (7) the crisis of democracy is not a peculiarly Italian or German problem,  
but one  
 ↑ confronting every modern state  
 not A or B but C 「AでもBでもなくてC」の構造から one は problem を指す。  
 不定冠詞を忘れないこと。  
 a crisis と答えた者は、構文・文脈把握力の欠落。
- (8) symbol はここでは「信条；主義 (creed)」の意。  
 コロン以下で具体例が述べられている。
- (9) It は The serious threat to our democracy を指す。  
 of conditions which … 以下は the existence を修飾することを見落とさないこと。  
 The serious threat to our democracy is not the existence of foreign totalitarian states but it is the existence ～. のように、but が隠れている (not A but Bの変形) と考える。ただし、but を訳語で示す必要はない。
- have given a victory to = have given a way to; have submitted to
  - external = belonging to, situated on, or forming the outside
  - discipline [dɪsəplɪn] = a way of training someone so that they learn to control their behavior and obey rules
  - uniformity [jʊːnəfɔːməti] = the quality of being or looking the same as all other members of a group
- (10) a 「第一次世界大戦の終結は自由のための最終的な勝利ではなかった。」  
 第1段落の But only a few years elapsed … から、本文と一致することがわかる。
- b 「第一次世界大戦後数年すると権威主義的組織が数カ国に現れた。」  
 in several countries とは言っていない。イタリアとドイツの2カ国である。
- c 「無数のドイツ人は権威主義的組織の下で自分たちの自由を進んで放棄した。」  
 第3段落で、millions in Germany were as eager to surrender their freedom … とある。一致する。
- d 「ヒットラーのような人間は力づくだけで国家を支配した。」  
 この内容は another common illusion であったとℓ. 12で述べられている。
- e 「ドイツには自由のための戦いというものはなかった。」  
 their fathers were eager to fight for it (= freedom) に反する。
- f ℓ. 23 not less endangered … in the name of A or in that of B という構造。  
 本文の場合は直訳すれば「反ファシズムの名において攻撃を受ける場合、自由が危険にさらされる程度は露骨なファシズムの名における攻撃と同程度に小さくない」ということである。  
 この選択肢は「自由は反ファシズムよりもファシズムそのものによって攻撃される場合の方が危険にさらされる」で不一致。
- g 「デューイによれば、民主主義は外国の全体主義国家が世界で積極的な役割を演ずる時に、危機に追い込まれる。」下線部①を参照。一致しない。

多くの人々により第一次世界大戦は最後の戦争であり、その終結は自由のための最終的な勝利であると考えられた。当時存在していた民主主義政体は足腰が強くなっているようであった。そして、新しい民主主義政体が古い君主政治にとって代わることになった。しかしほんの数経たないうちに、人々が数世紀にわたる闘争で勝ち得たと信じているすべてのものを否定する新しい組織が出現した。というのは、人間のすべての社会的かつ個人的生活を効果的に支配するこれらの新しい組織の本質は、一握りの人間を別としてすべての人々が自分たちでは抑えることのできない権威に服従することであったからである。

◎最初のうちは、独裁政治的組織の勝利は少数の個人の狂気が原因であり、その狂気ゆえにやがて没落するだろうと考えて慰めとしている者も多かった。イタリア人やドイツ人は民主主義の訓練を十分に長い期間にわたって受けてはいないので、西欧民主主義政体が持っている政治的成熟に到達するまで勝手に待っていればよいと理由もなく信じこむ者もいた。もう1つの一般的な幻想は、もしかするとこれが何よりも危険なのだが、ヒットラーのような人間はただ狡猾と策略だけで国家の巨大な機構を支配する権力を手中にしたのであり、こういった人間たちやその取り巻きは力づくだけで支配しているものであり、すべての国民はだまされたりおどされたりして、意志のない人間になっているだけであるという幻想であった。

以来経過した歳月のうちに、こういった主張が間違っていることが明白になった。我々はドイツの無数もの人々が、その先祖が自由を求めて戦ったと同じような熱心さで、自由を放棄したこと、自由を欲する代わりに自由から逃れる道求めたこと、それ以外の無数の人々は無関心で、自由を守ることなどのために戦ったり、死んだりするだけの価値があるとは信じなかったというようなことを認めざるを得なくなった。また我々は民主主義の危機は特にイタリアやドイツに限った問題ではなく、すべての近代国家が直面している問題であることも認めている。また人間の自由の敵がどの信条を選ぼうとそれは重要ではない。自由は反ファシズムの名において攻撃される場合でも、露骨なファシズムの名において攻撃される場合でも、少なからず危険にさらされるのだ。この事実についてはジョン・デューイが力強く明確に述べているので、彼の言葉でその考え方を述べてみる。「我々の民主主義に対する重大な脅威は、外国に全体主義国家が存在するということではない。①それは我々自身の個人的な考え方や我々自身の制度の中に、我々の外部にある権威、規律、画一性や外国の指導者への依存関係に屈服してしまっているさまざまな条件が存在するということである。したがって戦場もまたここに、すなわち我々自身と我々の制度の中にある。」と彼は述べている。

## 注

- ℓ. 1 ◇ The First World War 「第一次世界大戦」(1914-18)  
 ◇ was regarded (by many) as ～ と考える。by many は挿入。  
 ◇ struggle = a hard fight in which people try to obtain or achieve something especially something that somebody else does not want them to have  
 ◇ its conclusion = the conclusion of the First World War
- ℓ. 2 ◇ ultimate [áltəmət] = being or happening at the end of a process  
 ◇ democracy [C] 「民主主義国家；民主政体；民主社会」  
 ◇ new ones は new democracies を指す。

- ℓ. 3 ◇ elapse [ɪlæps] = (of time) pass  
 ◇ emerge = come into existence  
 ◇ which … 先行詞は new systems
- ℓ. 4 ◇ everything *that* men believed they had won ~  
 連鎖関係詞節。  
 ◇ For … 本問のように「というのは (…だからだ)」という意味を表す接続詞 for が  
 独立した文を導くのは長文を 20 題も読めば必ず目にする用法。
- ℓ. 5 ◇ take command of 「～を指導する [主導権を握る]」
- ℓ. 6 ◇ have no control over 「～を抑えることができない」
- ℓ. 9 ◇ smugly [smʌɡli] 「自己満足して；気取って」  
*cf.* smug = irritatingly pleased with oneself; self-satisfied  
 ◇ the Germans = German people
- ℓ. 10 ◇ sufficiently = enough
- ℓ. 11 ◇ complacently [kəmpləɪsntli] = in a complacent way  
*cf.* complacent = smug and uncritically satisfied oneself or one's achievement
- ℓ. 12 ◇ illusion = a false idea or belief  
 ◇ that … 名詞節を導く接続詞。
- ℓ. 13 ◇ gain power over = conquer  
 ◇ apparatus [æpəˈrætəs] 「(特定の政治目的のための) 組織；機構；地下活動組織」  
*e.g.* intelligence apparatus (情報機構)  
 espionage apparatus (スパイ組織)  
 ◇ through = by means of  
 ◇ nothing but = only
- ℓ. 14 ◇ cunning [ˈkʌnɪŋ] = the ability to achieve something by tricking or cheating other people  
 in a clever way; craftiness  
 ◇ trickery = the practice of deception  
 ◇ satellite [sæˈtələɪt] 「追従者；おべっか使い；取り巻き；かばん持ち」  
 ※ satellite (衛星) は元来ラテン語で「従者」の意味を持つ。  
 ◇ sheer = nothing other than
- ℓ. 15 ◇ will-less = not having the will
- ℓ. 16 ◇ since = since then  
 ◇ fallacy = a false idea that many people believe is true  
 ◇ argument = a set of reasons given in support of something
- ℓ. 17 ◇ apparent = obvious  
 ◇ be compelled to … = be impelled, forced or obliged to …
- ℓ. 18 ◇ surrender = give up (a right) on compulsion or demand  
 ◇ fathers = a person's ancestors  
 ◇ it は their freedom を指す。  
 ◇ that (instead of wanting freedom,) they sought for ways of escape from it

○接 [ M ] S + V の頻出パターン

- ℓ. 19 ◇ indifferent = unconcerned
- ℓ. 20 ◇ believe A to be C 「AをCと信じる；思う」
- ℓ. 21 ◇ peculiarly = ① uniquely ② strangely
- ℓ. 22 ◇ confront [kənfrʌnt] = (of a problem) present itself to (someone)
- ◇ every modern state 「すべての近代国家」
- state = a nation
- ◇ Nor does it matter ~ choose = And it does not matter ~ choose, either
- nor = and ~ not ..., either
- ‘否定の副詞+疑問文の語順’のobligatoryの倒置形態。
- it は which ~ を指す。
- ◇ matter = be important or significant
- ℓ. 23 ◇ endangered = seriously at risk of extinction
- ◇ if (it is) attacked in the name of ~
- ◇ in the name of = for the sake of
- ◇ anti-Fascism 「反ファシズム主義」
- ⇔ Fascism 「ファシズム主義（絶対権力を持つ独裁者に指導される政治体制）」
- ℓ. 24 ◇ that は the name を指す。
- ◇ outright = clear and direct ; complete and total
- ◇ so ~ that ... 構文
- ◇ forcefully = in a forceful way
- cf. forceful = strong and assertive
- forcible = ① done by force ② forceful
- ◇ formulate = express (an idea) systematically
- ◇ John Dewey (1859-1952) 米国の哲学者・教育学者。プラグマティズム (pragmatism) 継承の大成者。
- ℓ. 25 ◇ word = a remark or statement
- ℓ. 26 ◇ totalitarian states 「全体主義国家」
- totalitarian [tɒtəlɪtɛəriən] = (disapproving) (of a country or system of government) in which there is only one political party that has complete power and control over the people

### 【3】

#### 解答

- (1) I sometimes get so absorbed in what I am doing that I don't notice what's going on around me.
- (2) It doesn't matter to me whether or not the skater will be able to appear in the next Olympic Games.

- (3) The sooner consumers throw away something they have bought and buy another, the more money manufacturers make.

**別解**

- (1) There are times when I'm too absorbed in doing something to notice what is happening around me.  
 (2) I don't care whether the skater takes part in the next Olympics or not.  
 (3) The faster consumers discard something they have bought to buy its replacement, the more profits manufacturers make.

**解説**

- (1) 「～に夢中になりすぎて…」は‘結果・程度’を表す副詞節を使って表現することができる。‘so + 形容詞〔副詞〕 + that S + V’は「非常に～なので…」と解釈する‘結果’の用法で知られているが「…するほど～」と‘程度’に理解してもよい。「別解」は‘too ~ to …’（～すぎて…できない；…するには～すぎる）の構文を利用している。
- 「～に夢中である〔になる〕」be [get] absorbed in ~
  - 「周りで起きていることに気づかない」は don't notice [be unaware] what's going on around me。「周りで起きていること」は関係代名詞 what を使って what is going on [happening] around me と表すことができる。go on は主に進行形で使われて、「～が起きる」の意。
  - 「…することがある」は「時々…する」と考えて、sometimes … とするのが簡単だが、there are times when …（…時もある）という表現も使える。
- (2) 「そのスケート選手が次のオリンピックに出場できるかどうか」は名詞節であり‘whether S + V’を使って書くことができる。しかし、これは文頭に置くには長すぎる。そこで形式主語の it を利用して、「…かどうかは私にとっては重要ではない」と考えて英文を構成するとよい。
- 「スケート選手」skater でよい。
  - 「オリンピックに出場する」take part in [appear in ; be in] the Olympic Games [the Olympics]
  - 「…かどうかは私にはどうでもいいことだ」は「…かどうかは私にとって重要ではない」ということ。It doesn't matter [makes no difference] to me whether or not … [… or not] や It is not important to me whether or not … [… or not], It is all the same to me whether or not … [… or not] で表すことができる。‘私’を主語にするのなら I don't care whether or not … [… or not] のようにすることができる。
- (3) 「…すればするほど、ますます～」は‘比例’の副詞節‘The + 比較級 S + V, the + 比較級 S + V’を使うことがポイント。問題は「…すればするほど」に当たる S + V が2つあることだ。その2つを首尾よく and で並列できるかどうか。それには「消費者が買ったものを早く捨てれば捨てるほど、別のものを買うのが早ければ早いほど」という込み入った文を整理して、「消費者が買ったものを捨てるのが、そして別のものを買うのが早ければ早いほど」とまとめることだ。「早く」を表す副詞 soon を比較級にして、the sooner とし、S + Vの部分（＝「消費者が買ったものを捨てて、

別のものを買う) を続ける。「別解」のように、「代わりのものを買うために、買ったものを捨てる」と読み換えて、不定詞を使って表してもよい。

- 「消費者」 consumer
- 「～を捨てる」 throw away ～, discard ～ など。
- 「別のもの」は another (one) と表せるが、「別解」のように replacement (代替物) という単語を使ってもよい。あるいは something new (何か新しいもの) と訳してもよい。
- 「製造業者」 manufacturer
- 「儲かる」 make [earn ; gain] money, earn [gain ; make] profits

#### 【4】

##### 解答・解説

- (1) (She stood) with her back against (the wall.)
  - with A C 「AをCの状態にして」
  - against 「～によりかかって」
- (2) It was very stupid of me (to do such a thing.)
  - It is ～ (人の性質を表す) 形容詞 of A to … 「…するとはAは～だ」
- (3) (The campaign) opened with a series of reverses.
  - open with ～ 「～で始まる」
  - a series of ～ 「～の連続」
  - reverse 「不運」
- (4) I advise you not to borrow money (from your friends.)
  - advise O not to … 「Oに…しないよう忠告する」

You had better not borrow money だと6語になるので誤り。(×) had better not to …

  - borrow A from B 「BからAを借りる」
- (5) Failing health compelled him to leave college.

「衰えつつある健康が彼に大学を中退させた」が直訳。

failing は「衰える」の意の fail の現在分詞。health を修飾している。

  - compel O to … 「Oに強いて…させる」

#### 【5】

##### 解答

- (1) d - b - h, a - f - g - e - c
- (2) a - d - g - b - c, f - e
- (3) b - e, c - g - a - f - d
- (4) b - e - a - f - d - c
- (5) g - i, f - d - h - e - a - b - c



解説

- (1) (The United Nations) is dedicated to world peace (and its charter) clearly prohibits the international use of force.
- 「貢献している」は be dedicated to ~。
  - charter 「憲章」
  - 「~をはっきりと禁止する」は clearly prohibit ~。
  - 「~の行使」→「~の使用」は use of ~。※目的格関係を表す of。
  - 「武力」は force。
- (2) (Only in) a peace of which we can be confident (,can) the world prosper.  
only は準否定語と考える。Only in a peace (平和においてのみ) が文頭にシフトしたため、「否定の副詞+疑問文の語順」の形の倒置になる。
- (3) (The human species,) being water drinkers (,) developed the earliest societies at the forest edge near (streams and lakes.)  
主語 (The human species) と述語 (developed) の間に being water drinkers (理由を表す分詞構文) が挿入されている形。
- 「川や湖がそばにある森のはずれ」the forest edge near streams and lakes
- (4) (The knowledge of) how to manage fire went with man on his travels into (unknown lands.)  
The knowledge of how to manage fire ままでが主語。
- how to … 「…の仕方」
  - manage 「うまく扱う」
  - go with ~ 「~に付随する」
  - man on his travels 「移動している人間」
- 「状態 (運動の途中)」を表す on。
- (5) (The mysterious stone statues of Easter Island,) surrounded by the vast Pacific Ocean (,) show that it was once occupied by people highly skilled in stone working.
- surrounded by the vast Pacific Ocean  
分詞構文が主語と述語との間に挿入されている形。
  - show that 節 「…ということを示す」  
that 節は show の目的語になる名詞節。
  - be occupied by ~ 「~によって居住されている」
  - occupy 「~に居住する」 (= live in) ※ live in が普通。
  - people highly skilled in stone working 「石工に非常に熟達した人々」
  - skilled in ~ 「~に熟達した」

## 20章 総合問題 20

### 問題

#### 【1】

A.

#### 全訳

それゆえ科学史家は、先人たちを評価し紹介する場合には、大いに寛大で、寛容で、謙虚でなければならない。自分が扱っているのは過ちを犯すことのある不完全な人間がなしたことであり、彼らの1人ひとりには自分と同様にせいぜい真理の一断片しか見えていなかったのであるが、その一方で彼らの多くは自分をはるかに超えた才能の領域を持っていたのだ、ということを科学史家は忘れないように注意する必要がある。

B.

#### 全訳

我々が経験することができる最も美しいものは、神秘的なのである。それは、あらゆる真の芸術や科学の根源である。この感情に無縁な者、すなわち、立ち止まって不思議に思ったり、畏敬の念に心を奪われて立ち尽くすことのもはやできない者は、死んでいるも同然である。つまり、彼の目は閉じられているのである。生命の神秘へのこの洞察は、恐れと結びついた場合だが、宗教をも生み出した。我々にとって計り知れないものが本当に存在し、そしてそれは、我々の愚鈍な能力では最も素朴な形態でしか理解することができない最高の叡知と最高に光輝く美として現れる、ということを知ること、この知識、この感覚が、真の信仰心の核心にある。この意味で、またこの意味においてのみ、私は敬虔な信仰者なのである。

#### 【2】

#### 解答

- (1) 「全訳」の下線部①を参照。
- (2) ランプの芯をすぼめたので、薄明るい光が部屋に入ってくることによる効果や、それが父の彫りが深く、しわの寄った、依然として威厳を保った顔立ちの輪郭を浮き上がらせている様子が一層はっきりわかった。
- (3) 「全訳」の下線部②を参照。
- (4) ① c    ② a    ③ f    ④ c

#### 解説

- (1) of having stepped into a prison cell の of は「同格」を示す。My impression is that ~ 「私の印象は that 以下ということだ」の that 以下が of ~ となったと考えればよい。but then は「しかしその一方で」の意。this might have had ~ は、may + have + 過去分詞 (…したかもしれない) の may の部分が仮定法の婉曲用法である might になった形。this は直前の節を受けている。as ~ as … の部分は have ~ to do with … (…と~の関係がある) の表現が骨格。have ~ to do with … において「~」

は much なので「…と大いに関係がある」の意味となる。as ~ as … において、2 つ目の as が with ~ の直前に置かれていることから with ~ 句が比べられていると考える。had as much to do with A as with B (Bと同じぐらいAと大いに関係があった) が基本的な意味。しかし、下線部④に続く文を読むと、「というのは、父がカーテンを開け、髭を剃って…座っていて～していたからだ」とあるので、カーテンが開けられた窓から入り込む夜明けの薄明かりの方に重点が置かれていると考える。したがって、この as A as B は「A = B」の関係よりは「A > B」の関係に比重が置かれていることを読み取る。

- (2) Having done this は以下の説明とも関連するが、理由を表す分詞構文。内容は直前の節を受けて Having quickly lowered the wick と同義。all the more の部分を見て、all the 比較級 for ~ (～なので (その分だけ) 一層…だ) の形に気付く。ここではその変形で、the 「その分だけ」は for ~ の代わりに理由を表す分詞構文 Having done this を指す。

the effect of the pale light coming into the room の coming の意味上の主語は the pale light, of は同格関係を表している。「薄明かりがその部屋に入り込んでいたという効果」という意味になる。

- (3) So much so that ~ の2つ目の so は既述の形容詞、副詞を受ける指示語。その前の so much はそれを強めている強調語句。全体は「あまりにもそのようなので～だ」の意味。2つ目の so は直前の infirm を受けている。
- (4) この設問ではただ単語の知識を求めているのではない。文脈の中で問われている単語の意味を絞り込めるか否かの読解力が問われているのだ、ということをおぼろげに忘れない。

- ④ 「～を裏切る」では文脈に合わない。「～を示す；あらわにする」の意味。
- ⑤ wait を「待つ」の意味にとって「テーブルのところで待つ」と考えても、貴族に仕えて晚餐の時に「テーブルのところで待つ」ことは何を表すかを考えればよい。「テーブルのところで待つ」とは「テーブルの下で仕える；給仕する」ことだとは容易に考えられる。
- ⑥ この文の意味は「私はここに、今から行うように期待されている修正した任務の ( ④ ) をリスト化した。」となるから、「項目」を表す語が入ることになる。

**全訳** .....

この時より前に、父の部屋に入る機会はめったになかったため、その狭さと何もない様子に改めて驚いた。もっとはっきり言えば、④私が思い出す、その時の私の印象は、自分が刑務所の独房に入り込んでしまったというものであったが、しかしその一方で、そう思ったのは、その部屋の広さや部屋の壁がむき出しであったということの他に、その部屋に差し込んでいた夜明けの薄明かりが大いに関係していたかもしれない。というのも、父はすでにカーテンを開けており、髭を剃り、完全に身支度を整えて、ベッドの端に腰かけていたのだ。明らかにそこから、空が夜明けへと変わるのを眺めていたのであろう。父の部屋の小さな窓から見えるものは屋根の瓦や雨どい以外ほとんどなかったため、彼が少なくとも空を見ていただろうということは察しがついた。ベッドの脇の石油ランプは消してあった。ぐらぐらする

階段を上る際に、前を見るために私が携えてきたランプを、父が不快げに<sup>いちべつ</sup>一瞥したのを見て、私は急いでランプの芯をすぼめた。⑥これをしたので、薄明るい光が部屋に入ってくることによる効果や、それが父の彫りが深く、しわの寄った、依然として威厳を保った顔立ちの輪郭を浮き上がらせている様子が一層はっきりわかった。

「おや。」と私は言い、少し笑った。「お父さんがもう起きていて、今日の仕事の準備がすっかりできていることくらい、わかっていますね。」

「私はもう3時間前から起きている。」父は、私を上から下まで、かなり冷たく見回しながら言った。

「関節の痛みで眠れないのでなければいいのですが。」

「必要なだけは寝ているよ。」

父は部屋に1つしかない椅子、小さな木の椅子、に手を伸ばし、両手を背もたれに置き、体を引き上げるようにして立ち上がった。私は、父が自分の前に立つのを見て、父の背が曲がっているのが、どの程度体が弱ってきているためなのか、そしてどの程度その部屋の急勾配の天井に姿勢を合わせる習慣によるのか、確信できなかった。

「お父さん、私はあることをお話しにここに来ました。」

「なら簡潔に、簡単に話せ。お前の無駄話を午前中いっぱい聞いているわけにはいかない。」

「そういうことなら、父さん、すぐに要点をお話しします。」

「要点を言いなさい、そしてそれで終わりにしなさい。急いでやらなければならないことがある者もいるのだ。」

「わかりました。簡潔であることを望んでいる以上、それに応じるべく最善の努力を払います。つまり、お父さんは最近、ますます弱ってきています。⑦あまりにそうなので、副執事の任務でさえ今やその能力を超えています。私も同じように考えているのですが、ご主人様のお考えでは、お父さんが現在の職務を続行することは構いません。しかし、この家が円滑に運営されることに対して、お父さんはいつも脅威となるのです。とりわけ、来週の重要な国際会議の円滑な運営に対しては。」

薄明かりの中では、父の顔は、何の感情もあらわにできなかった。

「ですからまず」と私は言った。「お客様の有無にかかわらず、お父さんは食卓での給仕は今後要求されてはならない、と思われています。」

「私はこの54年間、毎日食卓で給仕してきた。」と父は言った。その声に慌てたところはまったくなかった。

「さらにお父さんは、どんなに短い距離でも、あらゆる種類の、物を乗せたお盆を運んではないと決まりました。これらの制約を考慮し、またお父さんが簡潔さをよとすることを知っていますので、ここにお父さんが今後行うことが期待される、改定した任務を、箇条書きにしてみました。」

『日の名残り』 カズオ・イシグロ（著）、土屋政雄（翻訳）、（早川書房）

（Z会で逐語訳したものを掲載しています。）

**注**

ℓ. 1 ◇ prior to ~ 「～より前に」 (= before)

ℓ. 4 ◇ pale *adj.* 「(物・物の色が) 薄い」

- ℓ. 6 ◇ evidently *adv.* 「明らかに」 *cf.* evident *adj.* < evidence *n., vt.*
- ℓ. 7 ◇ there being little else... → 理由を表す分詞構文。
- ℓ. 8 ◇ guttering *n.* 「雨どい」
- ℓ. 9 ◇ extinguish *vt.* 「消す」 (= put out) *cf.* extinction *n.* > extinct *adj.*
- ℓ. 12 ◇ awesome [ˈɔːsəm] *adj.* 「畏敬の念を起こさせる」  
*cf.* awe *n., vt.* > awful *adj.* > awfully *adv.*
- ℓ. 13 ◇ I might have known ~ : ここでは、「~」の部分を知っていて当然だった、という意味合いで使われている。
- ℓ. 21 ◇ accommodate *vt.* 「適応させる」 *cf.* accommodation *n.*
- ℓ. 23 ◇ concisely *adv.* *cf.* concise *adj.* ((言葉・文体などが) 簡潔な)
- ℓ. 33 ◇ principally *adv.* 「主に」 (= chiefly)  
*cf.* principal *adj.* 「主な」 *n.* 「校長」  
 ◇ wait *vi.* 「給仕する」
- ℓ. 38 ◇ esteem *n.* 「尊敬；尊重」
- ℓ. 39 ◇ revised *cf.* revise *vt.* 「改訂する」 < revision *n.*

### 【3】

#### ポイント

第2文では何を主語とし、どのような文構成にするかに特に注意したい。一見取り組みやすく見えるが意外と書きにくい部分もあるので、すっきりした英文となるように、日本語を慎重に読み換えて工夫したい。

#### 解答

You should avoid comparing your child with someone else expecting to smarten him up. Expressions like “Why can’t you be like your brother?” hurt his pride, and he may eventually have negative feelings about the person with whom he was compared as well as about you.

#### 別解

We should not compare our children with others with the intention of making them wiser. If we say to them, for example, “How come you can’t behave like your brother?”, it will damage their self-respect and eventually leads to their hating not only the parents who said it to them, but also the person they were compared with.

#### 解説

第1文は you should avoid …ing や you should not …の形にする。「…しようとして」は‘付帯状況’を表す分詞構文または副詞句を「子供を他の誰かと比較する」に続ければよい。

第2文の『なぜお前は兄さんのようになれないの』といった言葉は子供の自尊心を傷つけ」までは、まず、『なぜお前は兄さんのようになれないの』といった言葉を主語とし、「子供の自尊心を傷つける」の述部に続けるSVOの構成が考えられる。また、一般的な人、あるいは親を主語として、『もし『なぜお前は兄さんのようになれないの』と言えば、それは子供の自尊心を傷つける』として‘条件節+主節’の複文で表してもよい。後半の「やがて

- は…」以下は「子供」を主語とする構文の他に、「～といった言葉」を前の節と共通の主語にして「子供を親ばかりか比較の対象となった者をも憎む結果に導く」のように表すことも可能。
- 「(Aを) Bと比較するやり方は避けるべきである」は「やり方」にこだわらず、「比較するのは避けるべきである」と考える。should avoid comparing A with B, should not compare A with B のいずれの形でもよい。
  - 「他の誰か」someone else, または others でもよい。
  - 「子供を賢くしようとして」「～を賢くする」は make ~ wiser [smarter], smarten up ~など。「…しようとして」はここでは「…する意図で」とか「…しようとして」ということ。intend や expect を使って intending to ..., expecting to ...のようにするか、これらを名詞形にして with the intention of ...ing, in expectation of ...ing のようにして表す。
  - 「『なぜお前は兄さんのようになれないの』といった言葉」は、引用文を “Why can't you be like your brother?” や, “How come you can't behave like your brother?” など直接話法で表して, expressions like “Why ...?” のようにする。
  - 「自尊心」self-respect, self-esteem または pride が適切。
  - 「～を傷つける」damage ~, hurt ~, wound ~などのいずれでもよい。
  - 「やがては…になる」「やがては」は副詞で表すなら eventually が望ましい。この主語を「～といった言葉」にするのなら述部を make him ..., lead to his ...ing といった形にする。
  - 「～を憎む」hate ~, have a hatred for ~, have negative feelings about ~ といった表現が使える。
  - 「親ばかりか比較の対象となった者をも」「親」は単に parent(s) でもよいが、ここでは「そのような言葉を言った親」ということだから, the parents who said it (to him) のようにするとこの日本語の意味がよりはっきりと伝わる。また全体の主語を you にして書けば、この「親」も簡単に you とすることができる。「比較の対象となった者」は the person with whom he was compared。「～ばかりか…をも」は not only ~ but also ..., ... as well as ~ といった形にする。

#### 【4】

##### 解答・解説

- (1) scarcity [shortage]
  - (a) 教育を受けた人々でさえ、よい仕事を見つけるのに困難を感じる。
  - (b) 教育を受けた人々に対してさえ、よい仕事は不足している。
    - scarcity [shortage] 「不足」
- (2) decrease [diminish]
  - (a) (b) 男性も女性も、禁煙すれば癌の発病率が下がる。
    - less likely to ... 「より…しそうでない」
    - decrease [diminish] 「～を小さくする」

- (3) prevented  
 (a) (b) ポールは拘留中であつたので、自ら賞を受け取ることができなかった。  
 ○ prevent A from …*ing* 「Aが…するのを妨げる」  
 ○ in person 「自ら」 (= personally)
- (4) Thanks  
 (a) 日本は犯罪が少ないので、日本の自動販売機はアメリカのものよりも良く機能する。  
 (b) 低い犯罪率のおかげで、日本の自動販売機はアメリカのものよりも信頼できる。  
 ○ thanks to ~ 「~のおかげで」  
 ※日本語と同様に、皮肉な意味にも用いられる。本間がその例。

**【5】**

**解答・解説** .....

- (1) read  
 「あの看板の文字を読めますか。」  
 ○ make out 「目や耳でわかる」 → 「~を判読する」
- (2) reason  
 「彼のやったことを考えると、彼はまったく信用できない。」  
 ○ there is no reason to … 「…する理由はない」
- (3) rival  
 「スコットランドのメアリー女王は、イングランドの王位と何人かの若い<sup>ていしん</sup>廷臣の愛情をめぐって、エリザベス I 世と戦った。」  
 ○ 「エリザベス I 世と争った」 = 「エリザベス I 世とライバルだった」  
 ○ courtier [kɔ:rtiə] 「廷臣；宮廷人」
- (4) retire  
 「この会社ではすべての社員が65歳で退職することになっている。」  
 ※定年により退職するのは retire, 辞職により退職するのは resign。ここでは「65歳で仕事を辞める」だから retire が最適。
- (5) extinction  
 「今日虎は絶滅の危機に瀕している。」  
 ○ endangered 「絶滅の危険にさらされた」  
 ○ on the brink [verge] of extinction 「絶滅に瀕して」

## 添削課題

### 解答・解説

- (1) be going to …
- ① I *am going to* major in phonetics.
  - ② I *am going to* get over my cold in a few days.
  - ③ *Are you going to* buy it with cash or on a credit card?
- (2) how + 計量用法の性質形容詞 + …?
- ① *How long* will this nasty weather last?
  - ② *How many* floors are there in this (office) building?
  - ③ *How far* into this book have you read?
- (3) Shall I [we] …?
- ① A : Will you come over to our home today?  
B : All right. What time *shall I* come?
  - ② A : It's getting late. *Shall we* go home?  
B : Yes.
  - ③ A : I'm starving.  
B : I know a good restaurant down the street.  
A : *Shall we* go?
- (4) Look out! The ball is going to hit you.  
「危ない！」は「気を付けろ！」の意味の呼びかけなので、Look [Watch] out!, または、Careful! とする。(Danger! とすると、掲示で用いる表現となってしまうので、ここでは不可。また、Dangerous! とは言わない。) ここでは「目の前にあるボール」と考え、the ball とする。「当たる」は hit を用いればよい。話者が確かにありそうだと感じていることなので、蓋然性を表す be going to を用いる。  
cf. You're *going to* have trouble with that car before long.(その車はすぐに故障するよ。)









E3T/E3TK/E3TF

難関国公立大・医学部英語／難関大英語 T

京大英語／難関大英語 T (京大)

一橋大英語／難関大英語 T (一橋大)



Z-KAI

会員番号

氏名

不許複製